

# 「生きる力」を育成する学校経営の充実

～一人一人が輝く学校の継続・発展をめざして～

大分市立滝尾中学校 校長 佐藤 雅彦

## I. はじめに

大分市立滝尾中学校は、史跡「滝尾百穴」に代表されるように多くの歴史的遺産に囲まれた学校であり、校区には古墳や石仏も残され、いにしへの文化の香り漂う地区にある。また、滝尾地区は大分市中心部に近く、官公庁街や繁華街には車にて15分ほどで行ける位置にあることから、工業団地進出や区画整理事業、高速道路の米良インターチェンジの完成等でマンション建設や大型団地化が著しく進んだ。さらには、スポーツ公園や郊外型商業施設等の完成で学校を取り巻いていた山々の緑が少なくなってきた状況にある。

最近6年間の生徒数の推移をみても、平成22年度(868名)から平成24年度(904名)、平成26年度(974名)、平成27年度は(981名)[いずれも5月1日現在]と年々増加傾向にあった。今年度は(969名)と20人ほど減少しているが、県内でも有数の大規模校であると言える。

滝尾中学校の生徒・職員は、名実ともに「県下有数の中学校」になれるように、当たり前を磨く「凡事徹底」にこだわって学校生活を送っている。先手あいさつ・ノーチャイム2分前着席・無言ピカピカ清掃・花いっぱい運動など、生徒も教員も共に育っていくための活動に取り組んでいるところであり、このこだわりが健やかな心身づくりの核となっている。

昭和22年、戦後の混乱と廃墟の中から新しい学制改革による6・3・3制がスタートする中、滝尾中学校は地域の有志の方々の自主運動もあり開校し、本年創立70周年を迎えた。校歌の中に「自治の手旗をふりかざす 立て 若人の心意気 新しき世代をになう おゝ滝中われらの母校」とあるが、その方々の心意気は現在の滝中生にも受け継がれており、勉学や生徒会活動、部活動、さらには地域の養護老人施設へのボランティア活動等にも積極的に頑張っている。

## II. 本校の現状

生徒・保護者・地域の方々、そして、これまで本校に勤務された先生方の「一人一人が輝く滝尾中学校」をメインスローガンとした継続的な努力により、生徒たちは、教育環境が整った雰囲気の中で凛として落ち着きのある学校生活を送っている。教職員の姿勢キーワードは「率先垂範」であり、先手あいさつや時間を意識した行動、無言での清掃活動等、その意義を伝えると同時に教師が行動で示している。指導・支援のベクトルを全教職員で同じくして「職員室を出てからが勝負」を日々実践している。その成果は確かに表れており、集団としての生活リズムは確立されている。

しかし、個々の子どもたちの状況をみると要保護・準要保護家庭は15%を越え、母子(父子)家庭が多くなり、生活に厳しい家庭も年々増えている。基本的な生活習慣の欠如から学習習慣が身につかず、学力が低い者や生徒同士の人間関係の和を保てずトラブルとなる者も少なくないのが実情である。



70周年記念航空写真 全校生徒で校章を描く

## III. 本年度の重点課題への取組

### 1. 確かな学力の定着・向上

～ 学校研究・校内研修を核に ～

◇ 平成28年度 研究主題

「生徒自らが意欲的に学び合う学習指導のあり方」～生徒指導の三機能を生かして～

(1) 学び合う(支え合う)学習集団づくりを推進

する。

- ①学習規律の更なる定着を図る。(ノーチャイム・教師1分前入室完了・挨拶による始終)
  - ②学習環境を整備して授業に臨む。(机の整理整頓・ロッカー、ごみ箱、掲示物の整理)
- (2)校内研修の充実による魅力ある授業づくりを推進する。「滝中スタンダード」の共通理解と実践
- ①[生徒指導の三機能] 自己決定・自己存在感・共感的人間関係
  - ②めあて→振り返り、課題→まとめ[タキちゃんボード]新調(言語活動の充実・ICT機器の活用)

### 「滝中スタンダード」

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の魅力ある授業

#### ゴールを明確にしてブラッシュアップ

- 1 1時間完結型授業  
(「めあて」と「振り返り」のある授業)
- 2 板書の構造化・板書とノート一体化
- 3 習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実



#### 生徒指導の3機能を意識して

- 4 問題解決的な展開の授業  
(単元あるいは1単位時間)



### 滝中が目指す授業改善のポイント3

自然と生徒主体の授業、問題解決的な展開の授業になるはず

#### 1 自己決定の場を与える

課題に対して、追究し自分の考えをもつ



#### 2 自己存在感を与える

個々の活躍の場(発表・発信)・成就感  
個に応じた指導



#### 3 共感的人間関係を育む

交流し、他者を認め合い、励まし合い  
新しい考えを創造



- (3)教師一人一人の授業力の向上を図る。
- ①互見授業を推進する。(異教科、学活・道徳を含み全教員が提案2[略案提示]、参観3以上)
  - ②板書の構造化と適切な発問、わかる授業(UD)を推進する。
- (4)基礎・基本の定着と活用力の向上を図る。
- ①つまずきの発見と個別指導の充実を図る。(机間指導、ノート点検評価、)
  - ②繰り返し、反復学習を推進する。(朝学習の充実)
  - ③計画的に個別・補充・発展学習を推進

### \*今年度の職員朝礼で、校長から伝えた言葉から【学力向上に関すること】

- ・目の前にいるこの子(たち)のために
- ・先生方が日々行っている「当たり前を磨く指導」こそ、学力向上の手立てであり、先手生徒指導である。(教師1分前入室)(整理整頓)、(あいさつ)等々
- ・学力は、授業改善で必ず伸びる。授業において生徒の学びに向かう姿勢が前向きになれば、家庭学習にも良い影響を与えるからだ。
- ・「ねらい」は先生のもの、「めあて」は生徒のもの
- ・学習環境が整っていないことが、「気になり、見過ごせない感性」を教師がもつことがとっても大事!
- ・観点(生徒指導の三機能)をもって授業を行い、視点(生指三機能)をもって互見授業に臨む。
- ・特活「学校行事」で育むべき「望ましい人間関係」、「自主的実践的な態度」は、学力向上に直結する。
- ・学力向上についても、学年・学級ごとにどんな学期にするのか、まず「かたち」を定める。それを目指し、生徒の「心」を育てる。その取組は、必ず生徒の「姿」となり表出される。「かたち」→「心」→「姿」の順だ。

### 2. 豊かな心をはぐくむ教育活動の充実

- (1)生徒との触れ合い増(相談活動、生徒一人一人とコミュニケーション・生活ノートの充実)
- (2)道徳授業の充実(要である道徳授業の質を高める。H29 特別な教科道徳で実施する)
- (3)美しい学校づくり(豊かな感性・愛校心・環境づくり)
  - ①校内の美しい空間づくりの推進(掲示・展示物の整理)
  - ②無言・ピカピカ清掃の実践継続(滝尾中学校実践の宝)
  - ③「花いっぱい運動」「朝夕の奉仕清掃活動」の実践継続

(4)特別活動の充実（集団所属感・連帯感・協力する心）

①生徒と教師の協働作業推進（清掃・部活動・体育大会、文化発表会等の学校行事・奉仕活動等）

②生徒会活動の充実、諸行事の充実・学年独自活動奨励（あたりまえを磨く→BESTへ）  
（いじめゼロをさらに推進する）

(5)生徒の活躍場面増（大車輪賞・善行賞・読書1万P賞等の生徒表彰の継続）

(6)地域との連携（学校便り年間20号発行・HP更新70回以上）

(7)登校時・給食時・清掃時、職員室0人運動を推進する。（生徒との触れ合い増、危機管理体制の強化）全員で登校指導・給食指導・清掃指導

り運動、集団行動、体力テストによる体力向上）

(3)給食指導の充実と食育の推進を図る。



集団行動については、学期の始めや領域が変わる際に動きを確認しているため生徒は、教員が何も言わなくても整列等を自主的におこないます。

### 滝中いじめゼロ宣言



生徒会による決議「滝中いじめゼロ宣言」



平成28年度滝中生徒会スローガン「BEST」

### 3. 体力の向上と心身の健康の保持増進

(1)部活動の奨励を図る。（課後の諸会議の簡素化と、部活動全身体制での指導）

(2)保健体育科の授業及び体育的行事の充実を図る。保体科授業が、学習規律に大きく貢献。全学年統一した保体授業形態の取組(体づく

### 4. 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実】

(1)個に応じた支援体制の確立を図る。

①自尊感情醸成を旨とし、職員研修を通して発達障がい支援を含め実践的指導力の向上を図る。

②生徒・保護者との教育相談活動を充実させる。

③特別支援教育コーディネーターを中心とし、特別支援学級在籍生の全職員共通理解での支援実施

(2)保護者との相互理解を基盤とし、市教育センターや特別支援学校等関係機関との連携充実

①関係機関の機能の積極的な活用を図り、校内支援体制を確立する。

- ②特別支援教育推進専門機関(エデュ・サポートおおいた等)との緊密な連携、相談活動充実

## 5. 豊かな人間性や社会性をはぐくむ生徒指導の充実】

- (1) 不登校傾向生徒の減少に努める。
- ①生徒支援対策委員会を中心に組織的対応を図り、不登校傾向にある生徒の減少に努める。
- ②生徒支援対策部を中心に、全職員で「学習ルーム」の運営に当たる。
- ③SC や SSW と密な相談と対策協議を行ったり、外部の専門機関との連携を推進したりする。

ア. 生徒が不登校にならない、魅力あるより良い学校づくりのための取組を継続 (リスクマネジメント)

- \* 学習指導要領のねらいの実現(当たり前を磨き続け、高い志を抱ける生徒をはぐくむ)
- \* 開かれた学校づくりの推進(地域社会との連携、外部講師の招聘)
- \* きめ細かい教科指導等の実施(わかるUD授業の推進、生徒指導の三機能の充実)
- \* 学ぶ意欲を育む指導の充実(特別活動、キャリア教育の充実)
- \* 安心して通うことができる学校の実現(いじめゼロ運動、情報モラル教育の拡充)
- \* 生徒の発達段階に応じたきめ細かい配慮(特別支援教育、小中一貫教育の充実)

イ. きめ細かく柔軟に、個別の具体的な取組を推進 (クライシスマネジメント)

- \* 校内の指導体制及び教職員の役割
  - ・ 学校全体の指導体制の充実
  - ・ コーディネーター的な不登校対応担当の役割の明確化(生徒指導主事・学年生徒指導)
  - ・ 不登校対応に係る教員の資質向上
  - ・ 養護教諭の役割
  - ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割と教員との連携
- ウ. 情報共有のための個別指導記録の作成

### 【様式を定める】

- エ. 家庭への訪問等を通しての生徒や家庭への適切な働きかけ
- オ. 不登校生徒の学習状況の把握と学習評価の工夫
- カ. 生徒の再登校に当たっての受け入れ体制の構築
- キ. 生徒の立場に立った柔軟な学級替えや転校等の措置

- (2) 全校・学年・学級及び教科間の情報交換と連携を図る指導を推進する。

- ①職朝における情報交換(全教職員による共通理解)→それ以前に校長に全て報告済み
- ②生徒指導部会(週1回)や生徒指導に係る学年会の充実
- (3) 管理職、関係主任への報告・連絡・相談・情報提供を徹底する。
- (4) 様々な立場をもつ生徒とのかかわりを推進する。
- ①個別の対応と生徒支援対策委員会を中心とした連携指導の充実を図る。
- ②保護者はもちろん、SC&SSW、専門機関(子ども支援センター・児童相談所等)との連携・協力を図る。
- (5) 学級担任の「生徒指導力」に関する資質向上を図る。
- ①管理職及び先輩教師の積極的な指導・助言が生かされる環境づくりを推進する。
- ②学年部を中心に、同僚との人間関係の構築を図る。
- (6) 諸問題に対し、管理職・分掌主任を中心に組織的で可及的速やかな対応を行う。



2・3年生昇降口に掲げられた「当たり前看板」

## 6. 人権尊重の精神をはぐくむ教育活動の充実

- (1) 人権の視点に立った教育活動を推進する。
- ①人権尊重への意識を高揚させ実践化への意識を高めるため、教職員研修を充実する。
- ②集団づくりと温かい人間関係を育てるため、教育活動全体を通して人権教育を展開する。
- ③生徒・教員全員参加と協力による諸行事の取り組みを充実する。
- ④共に励まし合いながらの学習参加と、個々の学力の向上を目指す。

## 7. 「一人一人が輝く滝尾中学校」実践の深化・発展

- (1) 更なる組織力の向上を図る。  
指導の統一性・一貫性を図り、組織力を高める。(志を高く抱き、教職員のベクトルを合わせる)
- (2) 美しい教育環境を作り上げる。
- ① 豊かな心を醸成する観点からも環境の整備、美化に常時取り組む。
  - ② 「無言・ピカピカ清掃」、「花いっぱい運動」を推進、深化させ、学校文化として定着させる。
  - ③ 「真の気品にあふれた学校」を合言葉に、生徒と先生の協働作業を通して、「思いやり」あふれる活動を実践する。



「無言・ピカピカ清掃」に日々取り組む様子



平成28年度 全校生徒・職員 1032人

## 8. 教職員の活力増、疲労感の払拭

- (1) 職務のスリム化・スピード化・省エネ化・効率化による、疲労感の払拭・活力増・個性の発揮
- ① 主任を中心とした分掌実働率を向上
  - ② 校務を精選し、優先順位を意識して効率化
  - ③ 「会議の簡素化」を一層推進
  - ④ タイムマネジメントの意識向上

- (2) 教職員自身の「生きる力」を更に高める。
- ① 元気、活力、健康、明るさ、爽やかさ
  - ② 認め合い、支え合い、助け合える、明るい職場
  - ③ 服務規律研修等を通しての「人間力」の向上
- (3) 教職員の人権意識の高揚を図る。
- ① 学校現場では、生徒にとって教師が最大の教育環境
  - ② 教職員自身の言語環境の改善

## 9. 情報の積極的な収集・発信と学校評価の取組の充実

- (1) 「HP、学校だより、学年通信、学級通信、保健だより」等による積極的な情報発信をする。
- (2) 地域との連携による情報収集を図る。
- (3) 自己評価・外部評価を実施し、公表する。  
また、評価をもとに学校経営・運営の改善を図る。

### \*今年度の職員朝礼で、校長から伝えた言葉から【生徒指導や協働に関すること】

- ・事後の生徒指導は、事件・事故対応ではない。ピンチをチャンスに変える勝負の時だ。
- ・日々行っている「当たり前を磨く指導」こそ、先手生徒指導である。
- ・朝、7時30分には全職員が登校し、しかも誰も職員室にいない。これこそ学年経営・学級経営である。心から感謝！
- ・「労基法」を守るのは大切である。しかし、生徒に8時登校を課すならば、教員は7時半には校門や昇降口、教室で子どもを迎えるのは当然だ。時機を逸してはならない。
- ・「決定すること」は責任を負うこと、「報告」することは責任を送り共に背負うこと。
- ・前向きな言葉は、前向きな心をつくり、マイナスの言葉は、マイナスの心をつくる。言葉が心をつくる。「一期一会」を継続しよう。

#### IV. 教職の専門性と資質・能力の向上を図る研修の推進

校内研修が教職員の資質能力を高め、教育活動の充実を図る上で重要な役割を担っていることは言うまでもない。さらに、個々の教員の「資質能力の向上」だけではなく、学校全体の「組織力向上」という観点からも研修の充実が求められていると考える。そのため、教員同士が学び合い高め合う同僚性を大切にしながら、一年間を見通して計画的に実施していく必要がある。特に、学校課題解決に向けての日常的・持続的なOJTとしての研修・研究を深めていくことが重要である。

そもそも教員に求められる「不易」な資質・能力とは、教育者としての使命感をはじめ、教科等に関する専門性であり、生徒個々の成長・発達についての深い理解と愛情等の人間性、広く豊かな教養と規範意識等の社会性、また、それらを基盤として教育の目的である子どもの人格形成を実践的に目指せる指導力であろう。さらに、新たに求められている「力量」としては、コミュニケーション能力など対人交渉能力や、情報収集能力、コンピュータ活用能力などもあげられている。しかし、これらをすべての教員が一律にしかも高度に身につけることが期待できるわけではなく、学校という組織全体において多様な資質・能力をもつ教師集団が協働し、しかも充実した教育活動を展開できる学校風土を築くことが重要ではないかと考える。さらに、教員一人一人の資質能力は決して固定的なものではなく、経験を積むことにより変化し成長が可能なものであり、それぞれの職能、専門分野、能力・適性、興味・関心等に応じ、生涯にわたりその向上が図られる必要がある。



#### V. まとめとして（滝中教育実践の継続と発展）

大規模校においてもミッションを広げすぎてはならないと考える。人的資源が多いからといって、たくさんのミッションを果たそうとするのではなく、重点目標・重点取組・取組指標・達成指標を明確に定め、それに向けた組織編制と教職員の意識付けが必要である。

校長としての着任から2年間、続けていることが二つある。一つは、朝の7時20分から正門前の信号機交差点に、横断旗を持ち立つことである。もう一つは、「久遠の理想」という高尚過ぎる題名の職員向け通信を継続して記していることだ。教育の目的が子どもたちの人格の完成を目指すものであるのなら、その理想を語れなくなったらお終いだと考えるからだ。

一人一人の子どもたちを輝かせるためには、滝中教職員の生徒に対する指導・支援のベクトルを合わせ、指導の統一性・一貫性を図ることが重要である。例えばノーチャイムによる「教師の1分前入室の完了」の取組等である。また、生徒の登校時、管理職をはじめ副担任は旗を持ち道路に出て交通指導をする。学級担任は各教室、学年主任・副学年主任は生徒昇降口で生徒たちを迎えあいさつを交わす。清掃時はすべての教職員が膝をつき床を磨く。「率先垂範」の精神であり、先手生徒指導である。滝尾中学校は、このような「生きる力」を育む教育活動により、学習面、生活面ともに大きな成果をあげている。それは、体育大会や文化発表会等のみならず、日常の学校生活で表出される生徒たちの輝かしい姿からも評価できるものと考えている。

同じベクトルで教育活動に向かうように教職員を意識付ける上で最も影響を与えるのは、校長のビジョンの明確さと伝え続けることだと考える。そのことは、個々の教員の「資質能力の向上」と学校全体の「組織力向上」を成し、教育の究極的目的である「子どもたちの人格完成」を目指すことに必ずつながっていくと信じている。

#### 資料

- ・平成28年度学校経営
- ・職員向け通信「久遠の理想」
- ・大分合同新聞記事
- ・平成28年度第2学期・第3学期重点方針
- ・学校自己評価用アンケート 等々